

理事長に再任されて

理事長 栗原秀人

6月の総会及び理事会で引き続き理事長を仰せつかることとなりました。

前に就任したのが21年6月、今から振り返ると新型コロナの新規感染者数はさほど多くはなかったものの、実態の見えないウイルスに怯え、何事においても自粛自粛の生活が余儀なくされていました。その年の暮れから波状的な感染拡大が続き、社会活動全般に大きな影響を及ぼしました。当倶楽部の主な活動である研究集会を企画する各部会・分科会、支える理事懇談会も滞りました。



そんな中、オンライン分科会が立ち上がり、リモート開催を可能にしてくれました。

研究集会もオンラインで開催、コロナの状況を見ながら会場でのリアル参加も可能なハイブリッド開催が実現できました。その結果、遠隔地から講義と参加が可能となり、研究集会のテーマの良さも相俟って、これまで下水道とは直接的な関係がなかった衛生福祉、エネルギー分野の方々の参加を得ることができ、オンラインだからできることの価値を実感しました。一方で、対面でなければできないことの価値も痛感しました。コロナ禍の中にあっても、令和3、4年度は相当の活動ができたことと評価していますが、これも企画運営に関わっていただいた理事会、部会、分科会の皆さま、そして参加いただいた多くのお陰とお陰と感謝いたします。

新型コロナが心配な状況が未だ続いています、5月から5類に移行され、Withコロナ社会に向けた歩みが始まっています。令和5年度においてはこれまでに得たことの数々を更に高めながら、当倶楽部の活動を一層充実し、各方面に発信していきたいです。その象徴として昨年、ロゴタイプを作りました。

また、本年はHPをリニューアルします。

ご承知のように来年度から国の水道行政が国土交通省に移管されます。総会后、仁井理事から「水道行政の移管について思うこと」をお話いただきましたが、水道と下水道は似て異なるもの、互いの法律、歴史、建付け等の違いを国民各層に広く理解していただくことが必要です。多くの公共団体では上水道と下水道を同じ組織で担っていますが、その利点欠点も総括する必要があります。当倶楽部の研究集会はこれまで下水道に関係するものがほとんどでしたが、これからは水道や上下水道一体化に関するものも徐々に増やせていけたらと思います。

新規の会員確保も含め、皆さまには当倶楽部の活性化に向け、引き続きよろしく願いたします。

理事を退任された阿部さん、高橋さん、竹石さんにはこれまでありがとうございました。新しく理事となっていたいただいた鈴木さん、若狭さんにはどうぞよろしく願いたします。

2023年度活動報告

令和5年度通常総会報告

理事・事務局長 押領司重昭

令和5年度の通常総会が、6月16日（金曜日）にハイブリット方式（事務局会場：東京都文京区本郷 1-4-1 全水道会館）により開催されました。審議事項は、次のとおりです。

第1号議案 令和4年度事業報告、活動計算書

第2号議案 令和5年度事業計画、活動予算

第3号議案 役員を選出

正会員数88名のうち、会場出席31名、委任状28名（うちWeb出席4名）、計59名に出席いただき、各議案が事務局から説明され夫々承認されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行しての初の総会ですが、これまで培ったオンラインの経験を活かし遠方の会員の利便を考慮し、対面とWebのハイブリット方式により議事を運営しました。

役員人事については、鈴木穰氏と若狭公一氏が新たな理事に選任・就任されました。栗原、昆、秋山、押領司、大貫、大

屋、高橋、中西、仁井、村上、渡部（敬称略）が理事に再任されました。また、監事は、中尾、畑田（敬称略）が再任されました。そして、総会後の臨時理事会において理事長に栗原氏、副理事長に昆氏が選出され、理事長から押領司が事務局長の指名を受けました。

総会後の講演は、来年度、水道行政が厚生労働省から国土交通省と環境省に移管されることを踏まえ、「水道行政の移管について思うこと」と題し、仁井正夫理事から講演していただきました。国会図書館や新聞社の取材を通して、水道事業の歴史と水道と下水道のビジネスモデルの違いなどを語っていただきました。

講演の後は、近くの居酒屋を貸し切って、4年振りのリアル懇親会を開催しました。司会は秋山礼子理事に担当していただきました。来賓として、国土交通省水管理・国土保全局下水道部長松原誠様に臨席していただき、お祝いの言葉をいただきました。また、日本下水道事業団理事長森岡泰裕様並びに公益財団法人日本下水道新技術機構理事長花木啓佑様からお祝いのメッセージを頂戴し、司会から披露させていただきました。

清水顧問の乾杯をスタートに、先ほどの総会で理事を退任された阿部洋一氏、高橋真澄氏、竹石和夫氏からご挨拶をいただきました。その後は、新役員の紹介、講演をいただいた仁井理事の一言並びに意見交換に移りました。4年振りの懇親会ということで、参加者は時間の許す限り交流を深めておられました。

これから、2年間、新しい役員体制により、水倶楽部の活動・運営に努めてまいります。会員の皆様におかれても、活動に積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

越谷市立大袋東小学校下水道教室

神山真一

6月19日に大袋東小学校で下水道教室を開催した。4年生の社会科授業として4年生3クラス89人を対象に1階の調理室と廊下を挟んだ玄関ホールを使用して実施した。授業はクラスごとに1回45分の授業を3回（2時限～4時限）行った。内容は座学（水の使われ方、下水のゆくえと下水処理のしくみ）、



紙芝居（クマムシくんとなかまたち）、体験学習ではツマラン管の実験と顕微鏡による微生物の観察を行い、最

後に環境を守るために水をよごさない生活の工夫についてみんなで考え授業のまとめを行った。

今回の下水道教室への参加者は、NP021 世紀水倶楽部から5名、水コン協関東支部から2名、埼玉県下水道公社から3名、彩の国下水道同好会（県・下水道公社0B）から7名、メタウォーター（株）から4名の合計21名で、クマムシくんとクマニャンコちゃんの着ぐるみ担当では、メタウォーター（株）の若手4名に児童が楽しく学習できるよう授業を盛り上げていただいた。微生物の代表としてクマムシくんとクマニャンコちゃんの着ぐるみが教室に登場すると児童たちから大きな歓声があがり、明るい雰囲気の中で授業を進めることができた。ツマラン

管の実験では下水管の模型を使いトイレトペーパーとティッシュペーパーを別々のペットボトルの水の中に入れてよく振った後、実際に流して流れの違いを観察した。ペットボトルを両手で持って夢中に振っている児童たちの姿は真剣そのものであった。顕微鏡による微生物の観察では、全員がクマムシを観察することができ、微生物の動いている姿に感動し大きな叫び声をあげ大満足の様子だった。



授業終了後に、廊下でクラスごとにクマムシくん、クマニャンコちゃんと一緒に記念撮影を行い、クマムシくんとクマニャンコちゃんとの別れを惜しみながら、自分たちのクラスに戻って行った。最後にスタッフ全員で記念撮影を行い、次回へと想いをつないだ。

授業終了後に、廊下でクラスごとにクマムシくん、クマニャンコちゃんと一緒に記念撮影を行い、クマムシくんとクマニャンコちゃんとの別れを惜しみながら、自分たちのクラスに戻って行った。最後にスタッフ全員で記念撮影を行い、次回へと想いをつないだ。



大袋東小学校は環境教育に熱心な学校で、コロナ前までは全

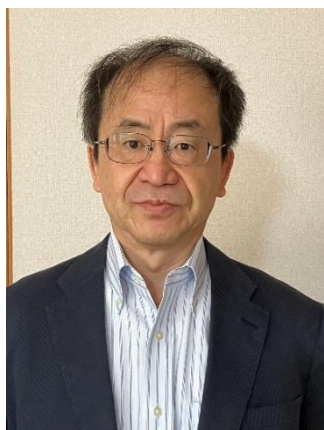
校児童や保護者を対象に環境に関する企業や団体等の参加によりエコフェスティバルを毎年学校行事として開催してきました。コロナ後は4年生の社会科授業として当倶楽部と関係団体協力のもと、今回が2回目の開催となった。学校からの期待も大きく、今後も楽しく下水道を理解してもらえよう関係団体と連携・協力し継続して取り組んでいきたい。

新役員自己紹介

鈴木穰理事

この度、総会にて理事に選任されました鈴木穰(ゆたか)です。

旧建設省に昭和59年に入省してから、最初2年間の霞が関勤務などを除いて、ほとんどの公務員人生をつくばの土木研究所で過ごしてきました。土木研究所では、先輩方に整備していただいた



研究基盤の恩恵を受け、下水処理場に設置された実験場に足しげく通い、実下水での実験を通して下水処理の感覚と技術を身につけることができました。また、JSや自治体の技術開発部門の人達との会議にも早い段階から参画させてもらい、技術検討結果を基準に反映させる経験をさせていただきました。

ももとは生物膜法を中心とした小規模用下水処理法が担当テーマでしたが、時代の変化に応じて、高度処理への担体法の適用、クリプトスポリジウムなど病原性微生物への対応、微量化学物質の生物影響と処理対策などと、新たに生じる研究テーマに向き合ってきました。どれほどちゃんとした解答を提示できたのか、心もとないところはありますが、最前線でそのような時間を過ごせたことは、現役として華であったと感じています。

これからのテーマは、省エネ・創エネによる温暖化対策や、リンなどの資源利用でしょうか。先輩の皆さんにご指導いただきながら、手の届く範囲の資源を利用しつつ、社会に還元できることを行っていければと考えています。

最後に、30数年ぶりに東京に勤めるようになって驚いたことを2つばかり。1)通勤途中で見える働く女性の数が大幅に増加。お恥ずかしながらつくばで浦島太郎でした。2)職場で見る日本人女性職員がとても優秀。そういえば、高校時代に周りに優秀な女の子がいたことを思い出しました。

若狭公一理事

この度、21世紀水倶楽部の理事を仰せつかりました若狭公一(わかさこういち)と申します。「どこかで聞いたことがある名前だぞ」と思われた方がいらっしゃるかも知れません。そうです、埼玉県出身の宇宙飛行士「若田光一(わかたこういち)」さん



と、平仮名で書くと一文字違いです。若田さんは地球を飛び出し広い宇宙で活躍していますが、私は下水道担当者として、地下空間を飛び回る「地宙飛行士」というペンネームで日々船外(業務外)活動をしています。

仕事では、埼玉県下水道公社で約30年間、化学職として下水道の維持管理に携わっています。キャリアの前半は処理場の水質管理、後半は普及啓発や広報、海外技術支援を、現在は市町村支援担当として県内を走り回っています。

30年前、私が処理場に配属され最初に教えられた言葉は、「とにかく下水をきれいにすること」「処理水質の向上」でした。当時は、普及率も流入下水水量もグングンと伸び、施設が急ピッチで建設されていたころです。私の処理場でも常に処理能力いっぱいでの運転が続き、できる限りの手を尽くしても処理水質は今ほど良くない、そんな時代でした。

現在は、新規の建設も一段落して、言わずと知れた改築更新と維持管理の時代に入っています。そこへ温暖化対策や創エネなどの新技術の導入、下水道料金収入の減少や激甚化する災害への対応に慌てふためいていると、世界的な情報化の波が押し寄せています。私たち下水道担当者は、処理水質の向上という一軸管理ではつじつまが合わない現実を目の当たりにし、二軸目に様々なファクターを置いた柔軟な発想から、自身のトランスフォーメーションが必要になっています。辞書で“世代”と引くと、「ほぼ30年間を一区切りとした年齢層」とされています。今まさに次の世代への転換期、次の30年に向けてしっかりと種まきをしなければいけないと感じています。

当倶楽部では、日本の下水道事業を創ってこられた偉大な先輩方から、当時の法整備や建設時における背景、思想などたくさんのお話をお聞きすることができます。私たち下水道担当者には、こうした下水道界の財産を現場に活かし、次の世代に繋げて行くという大切な役割があります。微力ではありますが、私もそれを実践していく所存です。

皆様のご指導を賜りながら、当クラブそして下水道事業の発展に全力で貢献していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

会員だより

徒然水草 其之貳 「夢のお告げ」

嫌気好気法師

夢を見た。宝くじで百万円が当たった夢である。狂喜乱舞して宝くじ売り場に飛んで行くと「お客さん、これ一番違いでハズレですよ」と言われ、大いに落胆するやら恥ずかしいやらという夢だった。

筆者は、宝くじは年末ジャンボくらいで、そう頻繁に買う訳ではないので、何故こんな夢を見たのか不思議だった。数日経っての仕事帰り、宝くじ売り場を見かけて、ふと先日の夢を思い出した。「もしかしたら、あれは宝くじ当選の正夢だったのかも知れぬ」と思い、一番違いでハズレだった点は気になりつつも、久々に宝くじを購入することにした。

その売り場には三つの窓口があり、五人ばかりが行列していた。売り場の脇にはミニ神社が拵えてあり、先ほど購入した中年サラリーマンは、買った宝くじを神前に供え、一心不乱に祈っている。さて、ほどなく右端の窓口が空き、前のおばあさんの番になったが、彼女はいきなり私の方を振り向いて、「わたし真ん中の窓口で買いたいから、お先にどうぞ。真ん中が良く当たるんだよ」と仰る。験の担ぎ方もなかなか奥が深いものだと感じつつ、私は連番10枚を買いたいのであった。

その後しばらく、宝くじのことは忘れていたが、先日、思い出して当選番号を調べてみた。すると何だか当たっているようなオーラが漂ってくる。「ややや、本当に当たったのか?!」と興奮して再度チェックすると、一番違いのハズレであった。

何と！先日の夢と同じである。不思議なこともあるものだ。ただし、外れ賞金は百万円ではなく一万円だった。しかしながら、百分の一にスケールダウンしたとは言え、あの夢は正夢だったことになる。

もし、外れ賞金が百万円だったら、世俗煩惱からまだ解脱してない筆者は、悔しくて一週間くらいは眠れなかっただろう。一万円だったので「当たっていたら、特上寿司が食べられたのに残念！」程度で収まって良かったと思いたい。

筆者は、いわゆる超常現象・超能力の類は信じない人間であるが、この経験以来、もしかしたら夢のお告げはあるのかも知れないと思い始め、超満員の東京ドームで当倶楽部の研究集会を開催している夢を見たいと就寝前に念じているこの頃であ

る。百分の一にスケールダウンしても、500人は来るはずである。

・・・以上は全て本当の話である。夢々疑うこと勿れ。

編集幹事のあと整理

- 6月16日に開催された通常総会。今年は三年ぶりに会場参加方式（プラスリモート参加）で行われました。コロナの間オンラインで会の運営が行われていたので、久しぶりの「オフ会」（オンラインでない、と言う意味）になりました。総会後は店を借り切ったの懇親会。編集幹事はNPOの二大要素のひとつとして「飲み会」を提唱していたので、感慨無量でした。
- 二大要素のもう一つはHPでの情報発信です。開設から二十年になり、いささか古いのではないかとの評判だったので、リニューアルのための予算も今回つけていただきました。結果をご期待下さい。
- 総会で役員改選がありました。新役員のお二人から自己紹介文（写真付き）をいただきました。なお、改選後の[役員一覧](#)です。ちなみに今回退任の役員は、阿部洋一、高橋真澄、竹石和夫の各理事でした。
- 徒然水草シリーズの村上会員。第2回目です。これでシリーズになりましたが、3回目以降も期待しています。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月